

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 川崎駅前教室			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日 ~ 2025年 12月 1日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	15名	(回答者数)	12名	
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日 ~ 2025年 12月 1日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	7名	(回答者数)	7名	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 20日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重度知的障害のある利用者様やケアニースの高い利用者様を受け入れ、長期的な療育を実施することができる。	教室内には写真カードなど意思疎通のために必要な教材を準備しており、自己表現や発信力を高められるよう支援している。個々の発達段階に応じたコミュニケーション方法を検討して環境調整している。また、将来的な生活について広範な相談に対応できるよう、障害教育経験者及び相談支援専門員経験者を配置している。	構造化により、教室内や個別学習の課題を一定のルールを定めて、視覚化することでよりよい環境を整える。障害福祉サービスを利用し生活していくことを念頭に高校卒業後の生活までイメージした支援計画の立案と職員が入れ替わってもが共通認識のもとで有用な支援を継続できる体制を作り上げる。
2	療育の内容を充実させるために職員を手厚く配置している。	非常勤職員も週5日勤務できる者を配置し、利用者様の日々の様子をしっかりと把握した上で関わっている。配置数を手厚くし、情報の共有を細かく行うことで、利用者様の個々の特性・状況に応じた療育をP C D Aサイクルのもとで実施している。	配置数の手厚さに加えて、個々の職員の専門性を療育にいかして魅力あるプログラムを企画・実施するとともに、職員間の学び合いとスキルアップを図ることで行動観察や関わり方に厚みを持たせる。
3	家庭や将来的な生活に向けた専門的な支援を行える職員を配置している。	児童指導員や専門的の職員の割合を高く配置している。また制度上は認められてはいないが、福祉分野や障害教育の現場経験が長い職員を配置することで専門的な療育を提供できる体制を組んでいる。	教室内で各職員の専門性に基づいた勉強会の実施や社外での研修などに参加し、より専門性を高めることでより良い療育を提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業療法士・言語聴覚士等の専門職が常駐していないため、摂食指導や発語、トイレトレーニングなどの高い専門性を要する指導が難しい。	利用者様の個々の特性に合わせたより専門的な指導を行う場合には作業療法士・言語聴覚士等の定期的なアセスメント、助言が必要不可欠だと考える。	社内の作業療法士・言語聴覚士等の専門職に定期的なアセスメント、助言をすでに依頼し、実施している。専門職の助言を得る中で職員のスキルアップを図る。
2	トイレが1か所であるために、トイレトレーニングの時間を完全に取ることが難しい場面が生じる。	利用者様の多くが中学生であるものの、トイレの自立が難しい利用者様が多い。二度性徴に伴う課題も男女ともに見受けられる。通常のトイレトレーニングとともに成長期における性差の認識や身体的な課題、第二次成長による新たな課題に取り組む必要性が生じているため。	トイレの自立度の向上に向けた支援とともに、トイレ誘導を組織的に行い支援に要する時間を確保する。日常の活動場面から学年相応の性差への認識を持つように意識して関わり、社会性の向上とともにADL全般の向上を図る支援に取り組む。
3			